

規則別表1へ追加する有害動植物のPRAの概要

農林水産省消費・安全局植物防疫課検疫対策室

分類	学名	目	科	寄主・宿主植物	発生国	生態、被害及び防除の情報	PRAの結果	検疫措置	参考文献
節足動物	Anastrepha grandis	Diptera	Tephritidae	スイカ(Citrullus lanatus)、メロン(Cucumis melo)、キュウリ(Cucumis sativus)、セイヨウカボチャ(Cucurbita maxima)、ククルビタ・モスカータ(Cucurbita moschata)、ペポカボチャ(Cucurbita pepo)、ユウガオ(Lagenaria siceraria)の生果実	アルゼンチン、エクアドル、コロンビア、パナマ、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ボリビア	詳細は「Anastrepha grandisに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照		以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【生果実】 ①本書虫が発生していない状態が維持されている地域として輸出国の政府機関が指定する地域において生産又は、 ②輸出国の政府機関が指定する処理施設において、本書虫を殺虫するために適切と認められる方法による処理が行われること	詳細は「Anastrepha grandisに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照
節足動物	Bactericera nigricornis	Hemiptera	Triozidae	エリシムム・ケイラントイデス(Erysimum cheiranthoides)、オランダセリ(パセリ)(Petroselinum sativum)、グンバイナズナ(Thlaspi arvense)、シロザ(Chenopodium album)、シロバナヨウシュチョウセンアサガオ(Datura stramonium)、セイヨウトゲアザミ(Cirsium arvense)、セイヨウノダイコン(Raphanus raphanistrum)、セイヨウヒルガオ(Convolvulus arvensis)、タマネギ(Allium cepa)、てんさい(Beta vulgaris var. rubra)、ナスナ(Capsella bursa-pastoris)、ニンジン(Daucus carota)、ノボロギク(Senecio vulgaris)、ハツカダイコン(Raphanus sativus var. sativus)、ブタクサ(Ambrosia artemisiifolia)、アブラナ属(Brassica)、ナス属(Solanum)の生茎葉及び生果実	インド、中国、ネパール、モンゴル、アフガニスタン、イスラエル、イラン、トルコ、レバノン、アゼルバイジャン、アルメニア、イタリア、ウズベキスタン、オーストリア、オランダ、カザフスタン、ジョージア、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、セルビア、タジキスタン、チェコ、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、フランス、ブルガリア、ポーランド、リトアニア、ルーマニア、ロシア、アルジェリア、モロッコ	「Candidatus Liberibacter solanacearum及びそのベクターに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照 本書虫は、細菌「Candidatus Liberibacter solanacearum」のベクターとなる。		以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【栽培用植物(苗、挿し穂(地上部))】 ①輸出時の目視検査及び本書虫が付着していないことを追記をした検疫証明書の添付 及び ②輸入時の目視検査の実施 【消費用生植物(葉野菜、切花・葉、果実)】 ①輸出時の目視検査及び本書虫が付着していないことを追記をした検疫証明書の添付 及び ②輸入時の目視検査の実施	「Candidatus Liberibacter solanacearum及びそのベクターに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照
節足動物	Bactericera trigonica	Hemiptera	Triozidae	ブタクサ(Ambrosia artemisiifolia)、セロリー(Apium graveolens)、ニンジン(Daucus)属の生茎葉	イスラエル、イラン、トルコ、イタリア、キプロス、ギリシャ、スイス、スペイン、スロバキア、チェコ、ポルトガル、マルタ、アルジェリア、エジプト、カナリア諸島	「Candidatus Liberibacter solanacearum及びそのベクターに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照 本書虫は、細菌「Candidatus Liberibacter solanacearum」のベクターとなる。		以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【栽培用植物(苗、挿し穂(地上部))】 ①輸出時の目視検査及び本書虫が付着していないことを追記をした検疫証明書の添付 及び ②輸入時の目視検査の実施 【消費用生植物(葉野菜、切花・葉)】 ①輸出時の目視検査及び本書虫が付着していないことを追記をした検疫証明書の添付 及び ②輸入時の目視検査の実施	「Candidatus Liberibacter solanacearum及びそのベクターに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照
節足動物	Trioxa apicalis	Hemiptera	Triozidae	インド(Anethum graveolens)、セロリー(Apium graveolens)、ヒメウイキョウ(Carum carvi)、コエンド(Coriandrum sativum)、クミン(Cuminum cyminum)、ニンジン(Daucus carota)、オランダセリ(Petroselinum hortense)の生茎葉	モンゴル、イタリア、ウクライナ、英国、オーストリア、スイス、スウェーデン、スペイン、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、フィンランド、フランス、ペラルーシ、ポーランド、ラトビア、ロシア	「Candidatus Liberibacter solanacearum及びそのベクターに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照 本書虫は、細菌「Candidatus Liberibacter solanacearum」のベクターとなる。		以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【栽培用植物(苗、挿し穂(地上部))】 ①輸出時の目視検査及び本書虫が付着していないことを追記をした検疫証明書の添付 及び ②輸入時の目視検査の実施 【消費用生植物(葉野菜、切花・葉)】 ①輸出時の目視検査及び本書虫が付着していないことを追記をした検疫証明書の添付 及び ②輸入時の目視検査の実施	「Candidatus Liberibacter solanacearum及びそのベクターに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照

分類	学名	目	科	寄主・宿主植物	発生国	生態、被害及び防除の情報	PRAの結果	検疫措置	参考文献
線虫	Aphelenchoides arachidis	Aphelenchida	Aphelenchoididae	Arachis hypogaea(ラッカセイ)の地下部(豆莢、種子も含む)	エジプト、ナイジェリア	寄生部位は、莢(果皮で生存。感染した莢は厚くなり、でこぼこになる。)、種子(外皮の組織の中で生存。感染種子は、暗褐色、しわといった症状)根(表面や内部に寄生)。分散方法は、種子伝染、感染根部による。雌成虫の体長は、0.510～1.000mm、雄成虫の体長は0.560～1.040mm。両性生殖が行われ、年間複数世代存在する。汚染土壌から10日後に莢に侵入が認められたとの報告がある。 被害として、ナイジェリアにおいて、本種の感染により種子重量が34%以上減少したとの報告がある。 防除方法は、温湯処理(60℃、5分、4回)による種子消毒が有効。	1. 農業生産等への影響評価の結論(病害虫固有のリスク)[中程度] 2. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの入り込みの可能性の結論(1)栽植用種子【高い】 3. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの病害虫リスク評価の結論(1)栽植用種子【中程度(入り込みの可能性が高い)】	以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【栽植用種子】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)及び線虫検定の実施	①CABI/CPC(2015) ②C.I.H. Descriptions of Plant-parasitic Nematodes, 1985. Aphelenchoides arachidis. Set8:31-33 ③A List of Exotic Nematode Plant Pests of Agricultural and Environmental Significance to the United States. (http://nematode.unl.edu/projectpest.htm)
線虫	Ditylenchus africanus	Tylenchida	Anguinidae	Arachis hypogaea(ラッカセイ)の地下部(豆莢、種子も含む)	中国、南アフリカ、モザンビーク	寄生部位は、莢(莢の中や果皮、土壌中の果皮残渣)、種子(種子の中で生育)、根(感染はするが、目に見えような病徴は現れない)。分散方法は、種子伝染、寄主植物が刈り取られた後も、植物残渣の有無に関わらず卵や乾燥耐久態として土壌中に潜伏し、春の初雨に合わせて孵化・給水し、次代の作物へと感染する。なお、卵や乾燥耐久態として、植物残渣中だけでなく寄主のない土壌中でも少なくとも28～32週間ほど生存可能。雌成虫の体長は、0.699～1.14mm、雄成虫の体長は、0.855～1.014mm。両性生殖が行われ、年間複数世代存在する。乾燥耐久態(anhydrobiotes)として、冬期の乾燥期間休眠する。本種の媒介性及び被媒介性に関する情報は無い。 被害として、本種が感染した種子は重量の減少や発芽への影響が見られた報告がある。 防除方法は、現状では適切な時期の作物の刈り取りによる線虫密度の低減、耐性の高い品種の利用。	1. 農業生産等への影響評価の結論(病害虫固有のリスク)[中程度] 2. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの入り込みの可能性の結論(1)栽植用種子【高い】 3. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの病害虫リスク評価の結論(1)栽植用種子【中程度(入り込みの可能性が高い)】	以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【栽植用種子】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)及び線虫検定の実施	①A List of Exotic Nematode Plant Pests of Agricultural and Environmental Significance to the United States. (http://nematode.unl.edu/projectpest.htm) ②Basson, S., Waele, D.de and Meyer A.J. (1990) An evaluation of crop plants as hosts for Ditylenchus destructor isolated from peanut. Nematopica 20(1) 23-29. ③Crop Protection Compendium (http://www.cabi.org/cpc/) ④Waele, D.de, Jordaan, E.M. and Basson, S. (1990) Host Status of Seven Weed Species and Their Effects on Ditylenchus destructor Infestation of Peanut. Journal of Nematology 22(3) 292-296. ⑤Waele, D.de, Wilken, R. and Lindeque, J.M. (1991) Response of potato cultivars to Ditylenchus destructor isolated from groundnut. Revue de Nematologie 14(1) 123-126. ⑥Wendt, D.R., Swart, A., Vrain, T.C. and Webster, J.M. (1995) Ditylenchus africanus sp. n. from South Africa; a morphological and molecular characterization. Fundamental and applied nematology 18(3) 241-250.
線虫	Meloidogyne enterolobii		Meloidogynidae	ケブカワタ(Gossypium hirsutum)、アラビアコーヒー(Coffea arabica)、スイカ(Citrullus lanatus)、キュウリ(Cucumis sativus)、ペボカボチャ(Cucurbita pepo)、コセンダングサ(Bidens pilosa)、ダンドボロギク(Erechtites hieracifolius)、パウロニア・エロンガタ(Paulownia elongate)、アセロラ(Malpighia emarginata)、クロミグワ(Morus nigra)、バラミツ(Artocarpus heterophyllus)、クズウコン(Maranta arundinacea)、クレロデンドルム・ウガンデンゼ(Clerodendrum ugandense)、ナツメ(Ziziphus jujuba)、クワクサ(Fatoua villosa)、アングロニア・アングスティフォリア(Angelonia angustifolia)、セイヨウキランソウ(Ajuga reptans)、ニシキジソ(Plectranthus scutellarioides (syn. Solenostemon scutellarioides)、ニンジン(Daucus carota)、キャッサバ(Manihot esculenta)、ショウジョソウ(Euphorbia cyathophora)、ユーフォルビア・ブニケア(Euphorbia punicea)、トウガラシ(Capsicum annuum)、タバコ(Nicotiana tabacum)、ソランドラ・マクシマ(Solandra maxima)、テリミノイヌホオズキ(Solanum americanum)、トマト(Solanum lycopersicum)、ナス(Solanum melongena)、ヒメノウゼンカズラ(Tecomaria capensis)、ティボウキナ・エレガンス(Tibouchina elegans)、ミノバショウ(Musa acuminata (=Musa nana))、サツマイモ(Ipomoea batatas)、ハナマキ(Callistemon citrinus (syn. Callistemon lanceolatus))、カリステモン・ウイミナリス(Callistemon viminalis)、バンジロウ(Psidium guajava)、エンテロロビウム・コントルティシリクウム(Enterolobium contortisiliquum)、ジョオウヤシ(Arecastrum romanzoffiana)、シロヤマモモ(Myrica cerifera)、オエケクラデス・マクラタ(Oeceoclades maculate)	スリランカ、タイ、中華人民共和国、ベトナム、スイス、コートジボワール、セネガル、ブルキナファソ、マラウイ、南アフリカ共和国、アメリカ合衆国、グアテマラ、コスタリカ、西インド諸島、ブラジル、ベネズエラ、メキシコ	詳細は「Meloidogyne enterolobiiに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照		以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【栽培用植物(地下部)】 ①栽培地検査(土壌検診、地上部の症状確認、線虫検定)及び本線虫が付着していないことを追記をした検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施	詳細は「Meloidogyne enterolobiiに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照

分類	学名	目	科	寄主・宿主植物	発生国	生態、被害及び防除の情報	PRAの結果	検疫措置	参考文献
真菌及び粘菌	<i>Alternaria dianthicola</i>		Pleosporaceae	アシワガンダ(<i>Withania somnifera</i>)、ヒマワリ(<i>Helianthus annuus</i>)、プランテン(<i>Musa puradisiaca</i>)、ナデシコ属(<i>Dianthus</i>)の生茎葉、種子	インド、台湾、タイ、パキスタン、ブータン、マレーシア、イタリア、オーストラリア、オランダ、カザフスタン、キプロス、旧ユーゴスラビア、スペイン、デンマーク、ドイツ、ハンガリー、フランス、ポーランド、ルーマニア、ザンビア、ジンバブエ、マラウイ、南アフリカ共和国、オーストラリア、タスマニア、ニュージーランド、ハワイ、アメリカ合衆国、カナダ、アルゼンチン、ジャマイカ、トリブラジル	感染部位は、花、種子、葉、莖。分散方法は、種子伝搬、葉又は莖で形成した病斑上に形成された分生子が風媒伝搬する。種子及び植物残渣を一次伝染源とし、罹病植物の葉及び莖に形成された分生子から風媒伝染により二次伝搬をすると考えられる。植物残渣中での生存の情報はない。 被害として、感染したカーネーションの花蕾は褐色に変わり、開花せずに萎縮するか、開花時に分生子が形成された場所にオリーブ褐色の病斑を発達させるとの報告がある。 防除方法は、種子消毒が有効と考えられる。	1. 農業生産等への影響評価の結論(病害虫固有のリスク)〔中程度〕 2. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの入り込みの可能性の結論 (1) 栽培用植物(苗、挿し穂(地上部)) 〔高い〕 (2) 栽植用種子 〔高い〕 (3) 消費用生植物(切り花) 〔中程度〕 3. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの病害虫リスク評価の結論 (1) 栽培用植物(苗、挿し穂(地上部)) 〔高い〕 (2) 栽植用種子 〔中程度(入り込みの可能性が高い)〕 (3) 消費用生植物(切り花) 〔低い〕	以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【 栽培用植物(苗、挿し穂(地上部)) 】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施 【 栽植用種子 】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施 【 消費用生植物(切り花) 】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施	①David.J.C1991. <i>Alternaria dianthicola</i> Neergaard, Danish Species of <i>Alternaria</i> and <i>Stemphylium</i> :190 MycoBank(http://www.mycobank.org/) ②C. K. Maiti, S. Sen, A. K. Paul, and K. Acharya, 2007. First Report of <i>Alternaria dianthi cola</i> Causing Leaf Blight on <i>Withania somnifera</i> from India. Plant Disease, 91:467-467 ③Yueh-Ling Li, Wen-Shi Wu, 2002. A New Seed-Borne Pathogen, <i>Alternaria dianthicola</i> , on <i>Dianthus</i> in Taiwan. Plant Pathology Bulletin, 11:165-167 ④J. C. DAvid, 1991. <i>Alternaria dianthicola</i> (IMI (CMI) Description of fungi and bacteria No.1073). Mycopathologia, 116:49-50 ⑤1991. Distribution maps of plant diseases(Map No.640 Edition 1). Distribution maps of plant diseases ⑥CABI,(CPC) <i>Alternaria dianthicola</i> . Crop Protection Compendium (CPC) http://www.cabi.org/cpc/
真菌及び粘菌	<i>Didymella rabiei</i>	Pleosporales	Dothideomycetes	ヒヨコマメ(<i>Cicer arietinum</i> (chickpea))、ムラサキウマゴヤシ(<i>Medicago sativa</i> (lucerne))、エンドウ(<i>Pisum sativum</i> (pea))、 <i>Trifolium alexandrinum</i> (Berseem clover)、ササゲ(<i>Vigna unguiculata</i> (cowpea))の生茎葉、豆莢、種子	アルメニア、アゼルバイジャン、中国、グルジア、インド、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、レバノン、パキスタン、シリア、トルコ、ウズベキスタン、アルジェリア、エジプト、エチオピア、リビア、モロッコ、タンザニア及びチュニジア、カナダ、米国、アルゼンチン、ブルガリア、キプロス、フランス、ギリシャ、ハンガリー、イタリア、モルドバ、ポルトガル、ルーマニア、スペイン、ウクライナ、オーストラリア	感染部位は、種子(ハッチ上に変色)。胞子と菌糸は種皮だけか種皮と胚種に存在)、莢(病徴は、淡色の同心円状に進展)、葉(環状、濃い茶褐色、えそ斑点が小葉に現れ、進展すると葉が枯れる)、莖、幹及び枝(莖の帯状に現れ、莖の先端部のしおれと枯死を引き起こす)。分散方法は、種子、植物残渣、植物残渣からの子のう胞子の風媒により起こる。雨季に植物の組織内の分生子殻で生成された分生子が、雨滴、雨水により分散する。菌は埋められていない植物残渣上で最大2年間生存でき、両生世代は植物残渣中で発生。子のう殻を生成するには低温・高湿の環境が必要。種子伝染は長距離伝搬の重要な原因となる。 被害として、ヒヨコマメに特に病原性を示すことが報告されている。しかし、発生地での本病菌による実際の損失は、発生時の気候に左右され、損失額を見積もるのは困難。 防除方法は、種子消毒として幅広い殺菌剤は種子感染を防除することが示されている。	1. 農業生産等への影響評価の結論(病害虫固有のリスク)〔中程度〕 2. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの入り込みの可能性の結論 (1) 栽植用種子 〔高い〕 3. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの病害虫リスク評価の結論 (1) 栽植用種子 〔中程度(入り込みの可能性が高い)〕	以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【 栽植用種子 】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)及び罹病種子に明確な病徴を現さないことから、精密検定の実施	CABI, . (CPC) <i>Didymella rabiei</i> . Crop Protection Compendium (CPC) http://www.cabi.org/cpc/ ,
真菌及び粘菌	<i>Seiridium cardinale</i>	Xylariales	Amphisphaeriaceae	<i>Libocedrus chilensis</i> 、コノテガシワ(<i>Platyclusus orientalis</i>)、ショウナンボク属の1種(<i>Calocedrus decurrens</i>)、フィツロヤ属の1種(<i>Fitzroya cupressoides</i>)、イトスギ属、カリトリス属、クロベ属、ビャクシン属、レイランドヒノキ属の生茎葉、球果、種子	イスラエル、キプロス、シリア、トルコ、アイルランド、英国、イタリア、ギリシャ、スペイン、ドイツ、フランス、ポルトガル、クロアチア、旧ユーゴスラビア、セルビア、モンテネグロ、グルジア、アルジェリア、チュニジア、モロッコ、南アフリカ、北米:米国(アラスカ州、カルフォルニア州、オレゴン州)、カナダ、コスタリカ、アルゼンチン、チリ、オーストラリア、ニュージーランド	感染部位は、球果及び種子(感染すると変色する)、葉(感染すると頂端部又は枝先の葉が黄変又は赤色化し、後に立ち枯れが進むにつれて茶色又は赤褐色に変色)、莖、幹及び枝(感染すると樹皮又は枝の病徴は赤褐色、分生子盤状の分生子果が黒い膿疱性体として莖、枝及び雌球花(球果)に散乱又はクラスタ状に現れる)。分散方法は、乾燥した状態では分生子を風で拡散させ(風媒)、放出された分生子は雨により分散する(水媒)。また、接ぎ木伝染及び種子伝染する。その他数種類の甲虫による媒介が示唆されている。生枝は一年以上活性を失わないとされていることから年間を通じて伝染することが考えられる。植物残渣での生存に関する情報は無い。 被害として、イタリア、地中海など好条件の環境下では、被害樹が数ヶ月～数年で枯死するとの報告がある。 防除方法は、混合殺菌剤の散布、種子の薬剤処理が知られている。また、発生初期段階における罹病樹の隔離又は伐採、剪定枝と脱落樹皮の除去が根絶防除の有効。	1. 農業生産等への影響評価の結論(病害虫固有のリスク)〔高い〕 2. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの入り込みの可能性の結論 (1) 栽植用植物 〔高い〕 (2) 栽植用種子 〔高い〕 (3) 消費用生植物(切枝、球果) 〔中程度〕 3. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの病害虫リスク評価の結論 (1) 栽植用植物 〔高い〕 (2) 栽植用種子 〔高い〕 (3) 消費用生植物(切枝、球果) 〔中程度(農業生産等への影響が高い)〕	以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【 栽植用植物 】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施 【 栽植用種子 】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施 【 消費用生植物(切枝、球果) 】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施	①(CPC) <i>Seiridium cardinale</i> ,Crop Protection Compendium (CPC) http://www.cabi.org/cpc/ ② <i>Seiridium cardinale</i> , EPPO Reporting Service (http://www.eppo.int/PUBLICATIONS/reporting/reporting_service.htm)

分類	学名	目	科	寄主・宿主植物	発生国	生態、被害及び防除の情報	PRAの結果	検疫措置	参考文献
真菌及び粘菌	<i>Sirococcus conigenus</i>	Diaporthales		ショウナンボク属の1種(<i>Calocedrus decurrens</i>)、カラマツ属(<i>Larix</i>)、ツガ属(<i>Tsuga</i>)、トウヒ属(<i>Picea</i>)、トガサワラ属(<i>Pseudotsuga</i>)、ヒマラヤスギ属(<i>Cedrus</i>)、マツ属(<i>Pinus</i>)、モミ属(<i>Abies</i>)の生茎葉、種子	ブータン、モロッコ、ラトビア、米国、カナダ、イタリア、オーストリア、スイス、スウェーデン、スペイン、チェコ、ドイツ、フィンランド、フランス、ポーランド、ロシア、英国	感染部位は、花(芽及び雌球花(球果)殻の内部に分生子果を形成)、種子(罹病種子は萎縮した症状)、葉(若い葉に小さな紫色を帯びた潰瘍を形成)、茎、幹及び枝(茎に小さな紫色を帯びた潰瘍を形成)。分散方法は、種子伝染、感染組織内に分生子柄及び分生子果を形成し、胞子を産生し、風媒、水媒する。ロッジボールバイン(<i>Pinus contorta</i>)のように、種子伝染が起こらないとされるものもある。土壌伝染はしない。発生地である米国レイク州及び北西部において、年1回、本菌は5月と6月に胞子が分散し、6、7、8月に感染した植物体内で増殖、枯れた枝内で越冬し、翌年の5月と6月の雨期に周辺の植物体に伝染する報告がある。植物残渣中で生存する。被害として、ヨーロッパにおいて <i>Picea abies</i> (ヨーロッパトウヒ)に、北米においてヒマラヤスギ属、トウヒ属、マツ属及びカラマツ属で発生した旨の報告がある。防除法は、不均等な樹齢の植え付け及び上層木の繁茂を避け、水の散布を最小限にとどめる。また、罹病樹の除去、雌球花(球果)及び枯れ枝等の除去など適切な管理のほか、薬剤散布が有効。	1. 農業生産等への影響評価の結論(病害虫固有のリスク)[高い] 2. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの入り込みの可能性の結論 (1) 栽植用植物 [高い] (2) 栽植用種子 [高い] (3) 消費用生植物(切枝、球果) [中程度] 3. 侵入経路となる可能性のある用途ごとの病害虫リスク評価の結論 (1) 栽植用植物 [高い] (2) 栽植用種子 [高い] (3) 消費用生植物(切枝、球果) [中程度(農業生産等への影響が高い)]	以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【 栽植用植物 】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施 【 栽植用種子 】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施 【 消費用生植物(切枝、球果) 】 ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施	①Crop Protection Compendium (CPC) http://www.cabi.org/cpc/ ②Northeastern Area State & Private Forestry - USDA Forest Service ③Kowalski, T.(2010) Occurrence and associated symptoms of <i>Sirococcus conigenus</i> on <i>Picea abies</i> . <i>Phytopathologia</i> 58:53-61 ④Rossman, A. Y.; Castlebury, L. A.; Farr, D. F.; Stanosz, G. R.(2008) <i>Sirococcus conigenus</i> , <i>Sirococcus piceicola</i> sp nov and <i>Sirococcus tsugae</i> sp nov on conifers anamorphic fungi in the Gnomoniaceae, Diaporthales. <i>Forest Pathology</i> . 38(1):47-60
細菌	<i>Candidatus Liberibacter solanacearum</i>		Phyllobacteriaceae	にんじん(<i>Daucus carota</i>)、セロリー(<i>Apium graveolens</i>)、なご(<i>Lycium barbarum</i>)、たばこ(<i>Nicotiana tabacum</i>)、とうがらし(<i>Capsicum annuum</i>)、きだちとうがらし(しまとうがらし)(<i>Capsicum frutescens</i>)、ばれいしょ(<i>Solanum tuberosum</i>)、トマト(<i>Solanum lycopersicum</i>)、こだちトマト(タマリロ)(<i>Solanum betaceum</i>)、ソラヌム・エラエアグニフォリウム(<i>Solanum elaeagnifolium</i>)、なす(<i>Solanum melongena</i>)、ソラヌム・ドゥルカマラ(<i>Solanum dulcamara</i>)、しまほおずき(<i>Physalis peruviana</i>)、おおぶどうほおずき(<i>Physalis philadelphica</i>)の生茎葉 にんじん(<i>Daucus carota</i>)の種子	スウェーデン、スペイン、ドイツ、ノルウェー、フィンランド、フランス、カナリア諸島、モロッコ、アメリカ合衆国、エルサルバドル、グアテマラ、ニカラグア、ホンジュラス、メキシコ、ニュージーランド	「 <i>Candidatus Liberibacter solanacearum</i> 及びそのベクターに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照	以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる 【 栽植用植物 】 ①輸出時の遺伝子検定及び本細菌が無感染である旨の追記をした検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施 【 栽植用種子 】 ①輸出時の遺伝子検定又は熱処理の実施及び本細菌が無感染である旨の追記をした検疫証明書の添付及び ②輸入時の目視検査(検鏡を含む)の実施又は ①輸出時の目視検査(検鏡を含む)の実施及び検疫証明書の添付及び ②輸入時の遺伝子検定又は熱処理の実施	「 <i>Candidatus Liberibacter solanacearum</i> 及びそのベクターに関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照	
細菌	<i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>actinidiae</i> biovar3		Pseudomonadaceae	サルナシ(<i>Actinidia arguta</i>)、キウイフルーツ(<i>A. chinensis</i> , <i>A. deliciosa</i>)、ミヤマタタビ(<i>A. kolomiktavine</i>)の茎葉、花粉	韓国、中国、トルコ、イタリア、ギリシャ、スペイン、スロベニア、フランス、ポルトガル、チリ、ニュージーランド	詳細は「 <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>actinidiae</i> biovar3(キウイフルーツかいよう病菌Psa3)に関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照	以下の措置が侵入リスクの低減が可能であり、かつ、必要以上に貿易制限的でない措置と考えられる。 【 栽植用花粉 】 ①輸出国での指定園地での生産及び遺伝子検定の実施並びに本細菌が無感染である旨の追記をした検疫証明書の添付及び ②輸入時の検査(検鏡を含む)の実施 【 栽植用植物(地上部) 】 ①輸出国での指定地域での生産及び本細菌が無感染である旨の追記をした検疫証明書の添付及び ②輸入時の検査(検鏡を含む)の実施	詳細は「 <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>actinidiae</i> biovar3(キウイフルーツかいよう病菌Psa3)に関する病害虫リスクアナリシス報告書」を参照	